

## ■ タイ国チェンライ県およびチェンマイ県地すべり監視対象地域現地調査

NICT は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による「e-ASIA 共同研究プログラム（e-ASIA Joint Research Program; "e-ASIA JRP"）」のプロジェクト「地すべりのモニタリングと予報システムの構築」（研究代表者：群馬大学大学院理工学府 若井明彦教授）に参画しています。

本プロジェクトは、日本・タイ・ベトナムの3か国の多国間共同研究であり、アジア諸国における地すべり災害被害を軽減するための研究が進められています。それぞれの国の代表機関は、タイ国立電子コンピューター技術研究センター、そしてベトナム国チュイロイ大学土木工学部になりますが、日本からは NICT と帝京平成大学もこれに参画しています。

NICT は、2020年02月08日から11日にかけて日本およびタイのメンバーと共にタイ国北部のチェンライ県およびチェンマイ県で現地調査を実施しました。

チェンライ県では、コーヒーの産地でもある Doi Chiang 村を訪問し、現地で問題となっている地すべり活動について、地形・地質調査をもとに検討しました。

Doi Chiang 村全景



地すべりで塀が移動している



現地での情報共有



チェンマイ県では、中国南部ないしビルマ族にルーツを持つと言われるモン族が居住する Doi Pui 村で調査を実施しました。山岳民族であるモン族は、華やかな刺繍の服などをまとうことで有名です。本プロジェクトでは、観光地でもあるこの村を対象に土砂災害警報をどのように発信するべきか検討を進めました。今後は早期警戒システム導入を行い、この村の防災力強化を目指します。

崩落発生箇所



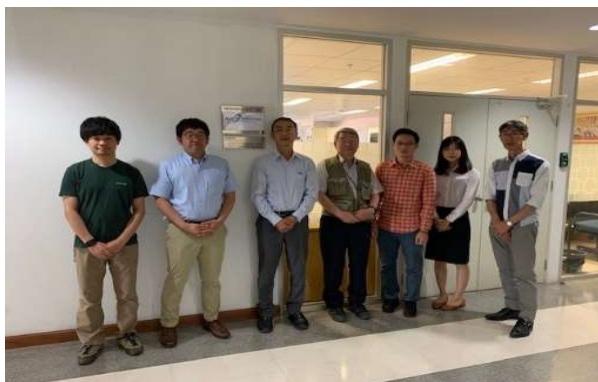
保全対象の集落



地質調査の状況



今回の調査最終日には NICT アジア連携センターで、現地調査のとりまとめも行われました。



左から、木村さん・佐藤さん・河野・山崎さん・VAN THANG NGUYEN さん・渡邊さん・浅井